

## 第90回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成30年6月26日(火) 13時30分～15時35分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】阿部正、川村栄司、斎藤美幸、三部吉久、田原博人、富田孝志、  
林由美子、深澤秀樹

【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、伊藤宏、若井祐次  
朝賀俊彦、鈴木典夫、佐野孝治、二見亮弘

〔オブザーバー〕 副学長：塩谷弘康、塘 忠顕

監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者

【学外委員】櫻井泰典、清水潔、渡邊博美

5. 議 事

【審議事項】

- (1) 学長選考会議委員の選出について
- (2) 役員の業績評価について
- (3) 就業規則の一部改正について
- (4) 平成29事業年度決算について
- (5) 平成29事業年度に係る業務実績報告書について
- (6) 平成31年度概算要求について

【報告事項】

- (1) 平成29年度監事監査結果について
- (2) 平成29年度経営協議会学外委員の意見への対応について
- (3) 平成29年度卒業生・修了生の就職状況等について
- (4) その他

議事に先立ち、中井学長から挨拶があった。

【確認事項】

第89回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

## 【審議事項】

### (1) 学長選考会議委員の選出について

中井学長から、資料1に基づき、学長選考会議規則第2条第1項により本学における学長選考会議委員の構成は、経営協議会からの選出委員5名、教育研究評議会からの選出委員5名とされており、経営協議会委員の任期は、昨年度で終了していることから、今年度新たに経営協議会学外委員から選出する標記委員5名について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

### (2) 役員の業績評価について

中井学長から、資料2に基づき、平成30年6月期期末特別手当に係る役員の業績評価について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

### (3) 就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料3に基づき、長期の外国出張期間中であってもインターネット等の通信手段により大学院研究科の学生に対する研究指導等を行った場合に本給の調整額を支給することができるよう本給の調整額支給細則を改正することについて提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

### (4) 平成29事業年度決算について

若井理事・事務局長から、資料4に基づき、平成29事業年度決算について、資産、負債、純資産の増減、損益の内容、当期末処分利益及び目的積立金等について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(以下、はその議題に関する学外委員からの質問・意見、は大学側の回答等を表す。)

昨今では、IT化に伴い無形固定資産の割合が高くなっている傾向であるが、福島大学資産全体の構成における無形固定資産の割合が低い数値となっているのはなぜか。

福島大学の無形固定資産の整理区分方法等を改めて確認した上で、次回の経営協議会で報告を行う。

( 5 ) 平成 2 9 事業年度に係る業務実績報告書について

中田理事・副学長から、資料 5 に基づき、平成 2 9 事業年度に係る業務実績に関する報告書について提案があり、全体構成として、教育・研究活動については、全体的な状況欄に総括的に記載したこと、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」の 9 計画については、取組内容を詳述したこと、業務運営・財務運営等の状況については、年度計画毎に 4 段階で自己評価し特記事項等を記載したこと及び自己評価を最高の「 」とした内容等について説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

福島大学は、福島第一原子力発電所事故後の復興拠点として、福島大学の経験を活かしていくということが重要である。そのために、現在まで復興に向けて取り組んできたこと、さらに力を入れていくということを社会に向けて積極的に発信及びアピールしていくことが必要ではないか。

業務を実施した成果と見出された課題を今後どのように大学の教育研究及び大学改革の進展に活かしていくかが重要である。不十分であった結果を持ち寄り、改善に向けて知恵を出していくことが、次のステップのヒントへつながり、新しい方向性がみえてくるのではないか。

業務実績評価は単年度の評価であるが、1 年ごとに業務内容を振り返る材料として一定の意味があり、また、第 3 期の評価期間においては、戦略性が高く、意欲的な目標・計画等の項目において各大学の特徴・特色を報告しているため、業務実績報告の在り方についても少しずつ改良・改善が行われている。また、各業務内容の効果について、単年度で効果が出るものと、ある一定の期間を経過しないと効果がみえないものがあるため、業務内容に応じて評価の期間を変えるなどの対応をしながら、成果と課題を基に改善に向けて検討を進めていきたい。

( 6 ) 平成 3 1 年度概算要求について

若井理事・事務局長から、資料 6 に基づき、平成 3 1 年度国立大学法人運営費交付金等の重点支援に係る概算要求の方向性の概要及び昨年度からの主な変更点、福島大学における強み・特色を活かした機能強化に係るビジョン・戦略・取組の方向性、共通政策課題分に係る対応、施設整備費補助金要求事項等について、提案があった。また、今後も情報収集等を行いながら、学長と相談の上、要求内容を練り上げていく旨、発言があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

共通政策課題に係る共同利用・共同研究拠点強化に向けた今後の対応について、大学として長期的な戦略及び目標を掲げて取り組んでいくということを社会に向けて強く主張していくことが必要である。予算要求に関わらず、被災地にある大学としての位置づけを明確にし、復興拠点としての基盤を固めていくことが重要であり、大きな戦略の一つとして進めていくことで、他大学と互角に戦っていけるのではないか。

環境放射能研究所の予算については、今年度から基幹経費化されたため、毎年度の予算要求は不要になったが、これまでの学内予算配分状況を勘案し、環境放射能研究所のプロジェクトを含む今後の必要経費等について検討を進める必要がある。ただし、本学におけるSATREPSの開始、IAEAの専門会議、研究会等も本学で開催されるなど、国際研究の実質的な拠点として固まってきていると思う。今後、大学全体として環境放射能研究所をどのように展開していくのかについて、体系的に被災地の大学として研究拠点を整備していくことの必要性を認識している。

長期的展望を明確にし、福島大学としての論理や考え方を持つことが重要である。関係機関との連携を有効に行っていくことが今から必要になってくる。福島大学の方向性を明確に表明していくことで、関係機関と連携する機会が増えてくることもあるのではないか。

#### 【報告事項】

##### (1) 平成29年度監事監査結果について

上井監事から、資料7に基づき、平成29年度監事監査結果について、監査方法の概要、監査結果の内容について報告があり、引き続き、平成29年度監事監査実施計画における重点事項等の実施状況及び実施状況に対する意見について説明があった。

今後の高等教育の将来に向けて、中・長期的な視点が求められている中、福島大学としての戦略を今から考えていくことが重要である。また、自治体が考える方策についても情報の共有を行いながら検討を進めていく必要があるのではないか。国より先行して、教育研究に発展できるような具体的な方策等を考えていかなければならないのではないか。

##### (2) 平成29年度経営協議会学外委員の意見への対応について

中井学長から、資料8に基づき、平成29年度経営協議会学外委員からいただいた

た意見について、本学としての対応状況及び今後の対応方針について報告があった。

(3) 平成29年度卒業生・修了生の就職状況等について

伊藤理事・副学長から、資料9に基づき、平成29年度卒業生・修了生の就職状況等について報告があり、学類・研究科別の県内・県外就職率及び各種就職率等の説明があった。

今後は、就職率ではなく、有期無期雇用における就職の割合、学生の就職への満足度など、就職の質の調査や分析を行い数値化した上で、より質の高い就職を目指していくことが重要ではないか。

今後は、どこに就職したかよりも、本人が仕事に対して満足し、生きがいを持って働いているかということが重要になってくると思う。